

記者発表（配付）資料

令和7年9月10日

所属部課	部長	館長	統括学芸員	担当	連絡先
萩市 商工観光部 萩博物館	藤原 章雄	大槻 洋二	伊藤 靖子	川原 康寛	0838-25-6447

件名	萩博物館特別展「絶滅動物展～未来へつなぐ生きものがたり～」 特別追加展示 県内初！外来種「ムネアカハラビロカマキリ」標本のお知らせ
----	---

この夏開催中の萩博物館特別展「絶滅動物展～未来へつなぐ生きものがたり～」では、数々の絶滅動物に加え、日本の絶滅危惧種を展示しています。その絶滅危惧種の減少の原因のひとつに、人間が持ち込んだ外来種による影響が挙げられています。この夏休みには市内外から来館した多くの子供たちに人間活動による自然環境の変化について学んでいただきましたが、本展のしめくくりとして、実際に山口県で新たな外来種として分布を広げ、さまざまな在来種への影響が危惧されている「ムネアカハラビロカマキリ」の標本を特別追加展示します。なお、本種の展示は山口県初となります。

記

【特別展】絶滅動物展～未来へつなぐ生きものがたり～

特別追加展示 外来種ムネアカハラビロカマキリ標本

【展示期間】令和7年9月12日（金）～同年9月21日（日）

（開館時間 9：00～17：00 ※16：30 最終入館）

【場 所】萩博物館 特別展会場出口付近

【概 要】

ムネアカハラビロカマキリは中国大陸が原産と考えられているカマキリの一種で、2010年に福井県で初めて報告されて以来、日本各地で生息が確認されています。本種は主に山林に生息し、同様の環境に生息する在来種のハラビロカマキリや、その他の昆虫への影響が懸念されています。

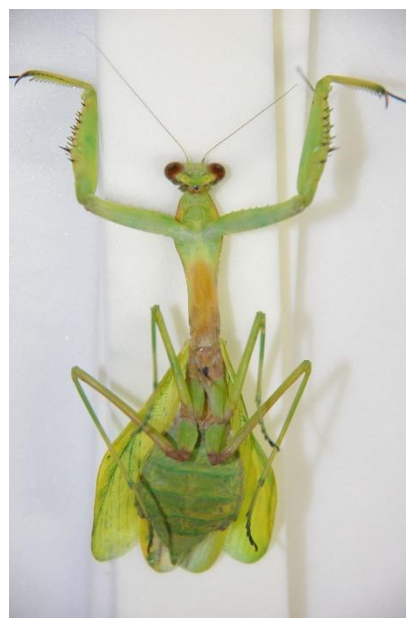
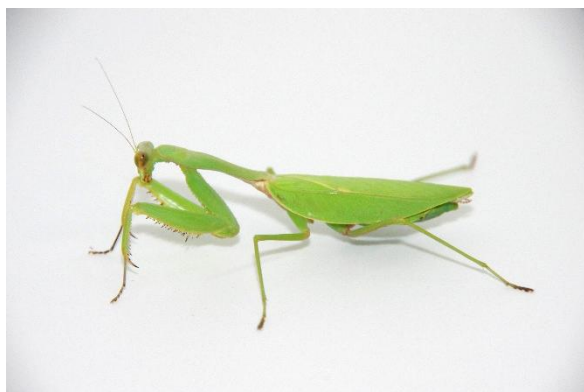
山口県では2016年、2021年、2022年に宇部市で本種が発見されて以来、当館学芸員の調査により2023年、2024年には美祢市、2024年に山口市で生息が確認され、隣接する萩市への侵入も懸念されることから、開催中の特別展「絶滅動物展」において山口県に住む人たちへリアルなメッセージとして、2024年に採集された山口市産、美祢市産の標本を特別追加展示します。

【ムネアカハラビロカマキリとは】

日本産のハラビロカマキリと同様に翅にクリーム色の紋があり、主に山林に生息します。一方で、在来のハラビロカマキリよりもかなり大型で、名前のとおり胸部が赤っぽく、カマの根元（前肢基節）に 10 個程度の小さな歯のような突起があることで見分けられます。近年、ムネアカハラビロカマキリが発見されるようになった場所では、在来のハラビロカマキリが減少したという調査結果も報告されています。



在来のハラビロカマキリ。翅にクリーム状の紋があるが、胸部は赤くない。



2024 年 9 月に山口市で発見された外来種ムネアカハラビロカマキリ。翅にクリーム色の紋があるが、胸部は赤っぽい。